

Pioneer

コンパクトディスクプレーヤー

CDJ-400

DJSコントロールガイド

DJS

■ DJSコントロールガイド

CDJ-400 (コンパクトディスクプレーヤー) は、コンピュータと接続することで、当社製DJソフトウェア「DJS」をはじめとするPCアプリケーションソフトをコントロールできます。CDJ-400とDJSとを組み合わせることで使用することにより、CDJ-400では以下の内容が実現可能です。

1. DJS上の2台のプレーヤー (A/B) のコントロール
2. 選曲操作
3. DJSのサウンド再生 (コンピュータのオーディオデバイスとしての機能)

※ 他社製PCアプリケーションソフトにおいては実現できない機能もあります。各PCアプリケーションソフトの取扱説明書などをご確認ください。

DJSは、MP3ファイルを使ってコンピュータ上でDJプレイを楽しむためのソフトウェアです。(DJプレイした音を録音することはできません。)

CDJ-400の取扱説明書 (印刷物) 、および、DJSのユーザーズマニュアル (PDFファイル) とあわせてご覧いただき、DJSを実際に操作してください。

目次

1章	CDJ-400とDJSの接続	
1-1	CDJ-400 2台の場合	3
1-2	CDJ-400 1台の場合	4
2章	起動時のご注意	
2-1	コントロールプレーヤーの選択	5
2-2	CDJ-400のオーディオデバイス機能設定	6
3章	CDJ-400を使ってDJSをコントロールする	
3-1	DJSのプレーヤーを操作する	8
3-2	選曲する	9
3-3	コントロールプレーヤーの切替	9
4章	サポートサイトのご利用について	10

- DJSをご利用になる前に、必ず「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
DJSの「ソフトウェア使用許諾契約書」、「最低動作環境」、「インストールの手順」については、DJSに付属している印刷物「ご使用前に (Read Before Use)」をご覧ください。
- お客様が録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
CD などから録音される音楽は、各国の著作権法ならびに国際条約で保護されています。また、録音した者自身が、それを合法的に使用する上でのすべての責任を負います。

※ PioneerおよびDJSは、パイオニア株式会社の登録商標または商標です。

※ Microsoft、Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

※ MPEG Layer-3音声圧縮技術は、Fraunhofer IISおよびThomson multimediaからライセンスを受けています。本製品で付与されているライセンスは非商業的な個人目的での使用に限定され、商業目的 (営利目的) でのリアルタイム放送 (地上波、衛星放送、ケーブルテレビ、その他の媒体)、またはインターネット、イントラネット等のネットワークを利用したブロードキャストまたはストリーミング、あるいはペイオーディオ、オーディオオンデマンドアプリケーション等の電子コンテンツ配信システムで本製品を使用するライセンスを与えるものではなく、そのような権利を暗示するものでもありません。商業目的での使用には別途ライセンスが必要となります。

詳細については、<http://www.mp3licensing.com>をご覧ください。

※ その他記載されている会社名および製品名等は、各社の登録商標または商標です。

©2008 パイオニア株式会社 禁無断転載

1章 CDJ-400とDJSの接続

CDJ-400とDJSを組み合わせて使用することで、CDJ-400からDJSをコントロールできます。

CDJ-400からDJSをコントロールすることにより、今までコンピュータのマウスやキーボードで行っていた操作をDJプレイヤーを操る感覚でマニピュレートすることができます。

CDJ-400を1台接続する場合

1台のCDJ-400を切り換えながら、DJSの2台のプレイヤーをコントロールすることができます。→「1-2 CDJ-400 1台の場合」

1-1 CDJ-400 2台の場合

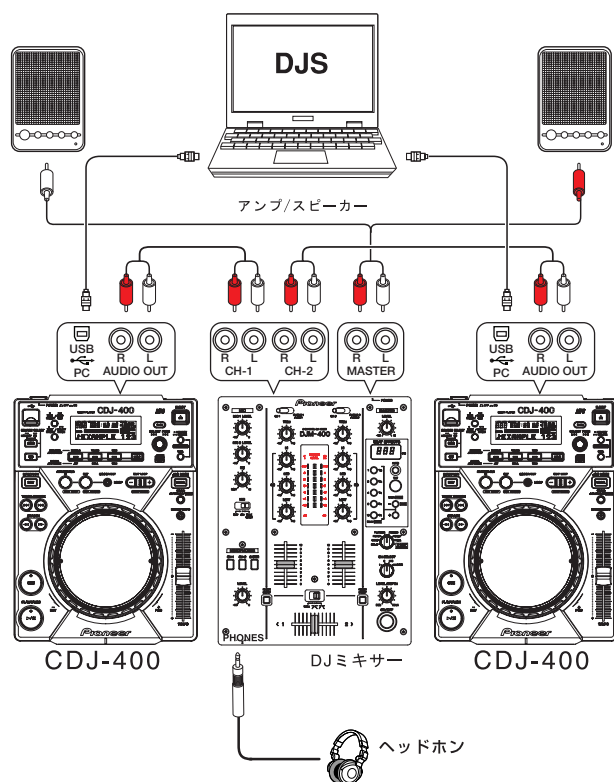
2台のCDJ-400にコンピュータを接続して、DJSのプレイヤーAとプレイヤーBを直感的に操作することによって、DJパフォーマンスの幅が広がります。

プレイ、CUE、スクラッチ、テンポコントロールなどのプレイヤーの基本操作はもちろん、ロータリーツマミなどを使ってDJSの楽曲リストからの選曲操作ができます。

●CDJ-400からオーディオ出力する場合の構成（接続例）

CDJ-400にはコンピュータのオーディオデバイスとしての機能が備わっています。DJSのオーディオ出力先をCDJ-400に設定すると、CDJ-400で再生が可能な音楽CDやUSBメモリの楽曲ソースと同じように、DJSの音声をCDJ-400の音声出力端子から出力することができます。

→「2-2 CDJ-400のオーディオデバイス機能設定」



●CDJ-400からオーディオ出力しない場合の構成

CDJ-400のオーディオ出力を使用しないで、他のオーディオデバイスからDJSの音声を出力する場合の構成（接続例）は、次ページの「●DJSのミキサー機能を使用する場合の構成（接続例）」および「●外部のDJミキサーを使用する場合の構成（接続例）」をご覧ください。

！注意

DJSのバージョンアップ

CDJ-400とDJSを組み合わせて使用するためには、バージョン1.500以上のDJSが必要です。DJSのバージョンアップの方法については、DJSのユーザーズマニュアルをご覧ください
→「4章 サポートサイトのご利用について」

！注意

コンピュータに接続する前に

CDJ-400をコンピュータに接続して使う場合には、CDJ-400用のドライバソフトウェアをコンピュータにインストールしてください。CDJ-400用のドライバソフトウェアの入手とそのインストール方法については、CDJ-400の取扱説明書の「接続のしかた」および以下のホームページをご覧ください。
<http://www.prodjnet.com/support/>

メモ

CDJ-400とDJミキサーとの接続

CDJ-400の音声出力端子(AUDIO OUT)とDJミキサーの音声入力端子(CH)を接続します。CDJ-400に付属しているオーディオケーブルの白のプラグは白い(L)端子へ、赤のプラグは赤い(R)端子へ接続します。

DJミキサーとアンプ、ヘッドホンとの接続

DJミキサーの音声出力端子(MASTER)にはアンプやスピーカー、ヘッドホン出力端子(PHONES)にはヘッドホンを接続します。接続方法については、お使いのDJミキサーの取扱説明書をご覧ください。

1-2 CDJ-400 1台の場合

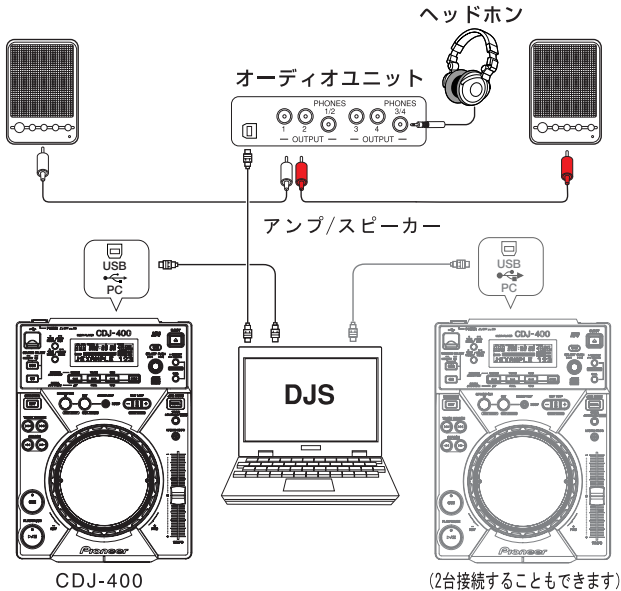
1台のCDJ-400で、DJSのプレーヤーAとプレーヤーBを切り換えながらコントロールすることができます。

プレイ、CUE、スクラッチ、テンポコントロールなどのプレーヤーの基本操作はもちろん、ロータリーツマミなどを使ってDJSの楽曲リストからの選曲操作ができます。

●DJSのミキサー機能を使用する場合の構成（接続例）

コンピュータの各オーディオ出力には、DJSのマスター（アンプ/スピーカー用）とモニター（ヘッドホン用）の音声出力されます。

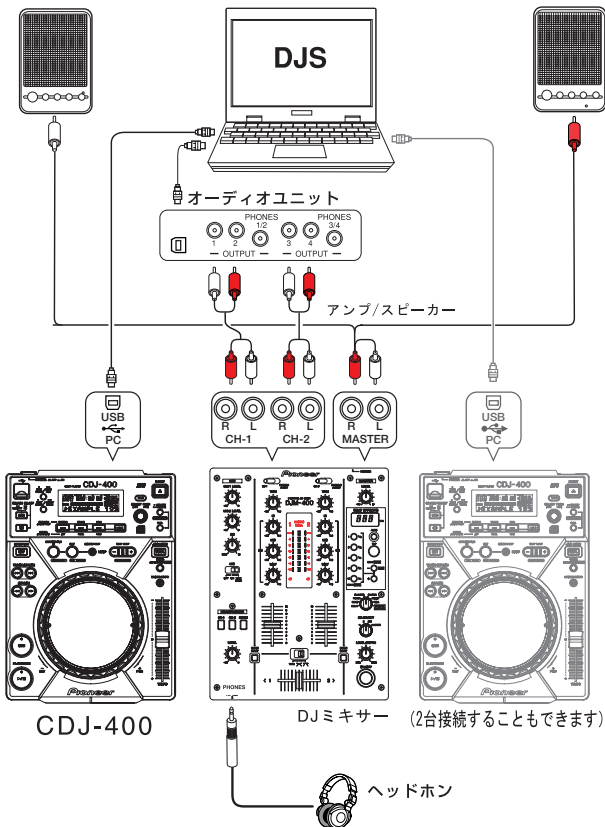
コンピュータに2系統以上のオーディオ出力が必要です。



●外部のDJミキサーを使用する場合の構成（接続例）

コンピュータの各オーディオ出力には、DJSのプレーヤーAとプレーヤーBの音声出力されます。

コンピュータに2系統以上のオーディオ出力が必要です。



！注意

コンピュータに接続する前に

CDJ-400をコンピュータに接続して使う場合には、CDJ-400用のドライバソフトウェアをコンピュータにインストールしてください。CDJ-400用のドライバソフトウェアの入手とそのインストール方法については、CDJ-400の取扱説明書の「[接続のしかた](#)」および以下のホームページをご覧ください。
<http://www.prodjnet.com/support/>

メモ

DJSのミキサー機能

DJSの設定画面で、内部のミキサーを使用するように設定を切り換えて、マスター（アンプ/スピーカー用）とモニター（ヘッドホン用）のオーディオ出力先を設定します。

→「[2-2 CDJ-400のオーディオデバイス機能設定](#)」

オーディオユニット

コンピュータにオーディオ出力が1系統しかない場合は、サウンドカードやオーディオユニットなどのデバイスを増設してください。コンピュータとオーディオデバイスとの接続方法およびドライバのインストールについては、各オーディオデバイスの取扱説明書などをご覧ください。

メモ

外部のDJミキサーを使用する

DJSの設定画面で外部のミキサーを使用するように設定を切り換えて、プレーヤーAとプレーヤーBのオーディオ出力先を設定します。
 →「[2-2 CDJ-400のオーディオデバイス機能設定](#)」

オーディオユニット

コンピュータにオーディオ出力が1系統しかない場合は、サウンドカードやオーディオユニットなどのデバイスを増設してください。コンピュータとオーディオデバイスとの接続方法およびドライバのインストールについては、各オーディオデバイスの取扱説明書などをご覧ください。

リストプレーヤー

コンピュータに3系統以上のオーディオ出力がある場合は、プレーヤーA、プレーヤーB、リストプレーヤーの3つプレーヤーの音声出力できます。

DJミキサーとアンプ、ヘッドホンとの接続

DJミキサーの音声出力端子(MASTER)にはアンプやスピーカー、ヘッドホン出力端子(PHONES)にはヘッドホンを接続します。接続方法については、お使いのDJミキサーの取扱説明書をご覧ください。

2章 起動時のご注意

CDJ-400、コンピュータおよびDJSを起動して演奏を始める前に、コントロールプレーヤーの選択とオーディオ出力先の選択を行なってください。

2-1 コントロールプレーヤーの選択

USBケーブルを使って、CDJ-400をコンピュータに接続します。

CDJ-400に付属している各種ケーブル、および、CDJ-400の各種ケーブル端子については、CDJ-400の取扱説明書の「[接続のしかた](#)」をご覧ください。

1 コンピュータを起動する

2 CDJ-400の背面にあるUSB端子とコンピュータのUSBポートをUSBケーブルで接続し、CDJ-400の電源を入れる。

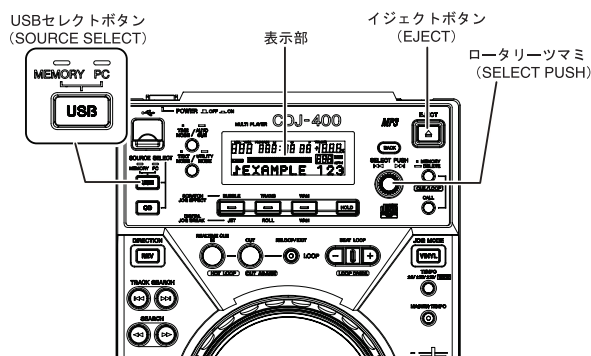
- あらかじめCDJ-400の電源を入れておいて、後からCDJ-400をコンピュータに接続することもできます。

3 DJSを起動する。

- DJSが起動すると、【DJ Play】画面が表示されます。

4 CDJ-400のUSBセレクトボタン（SOURCE SELECT）で「PC」を選択する。

- USBセレクトボタンを押すたびにインジケータが「MEMORY」と「PC」に切り換わります。



5 CDJ-400のロータリーツマミ（SELECT PUSH）を回して、アサインするDJSのプレーヤー（AまたはB）を選択する。

- CDJ-400をDJSプレーヤーAにアサイン
ロータリーツマミを左に回すとCDJ-400の表示部に「PLAYER A?」と表示されるので、ロータリーツマミを押してください。
- CDJ-400をDJSプレーヤーBにアサイン
ロータリーツマミを右に回すとCDJ-400の表示部に「PLAYER B?」と表示されるので、ロータリーツマミを押してください。

CDJ-400を2台接続する場合

片側のCDJ-400をDJSのプレーヤー（AまたはB）にアサインしてから、反対側のCDJ-400もDJSのプレーヤー（AまたはB）にアサインしてください。

CDJ-400を1台接続する場合

「PC」が選択されている状態の時にイジェクトボタン（EJECT）を押すと、アサインされているDJSのプレーヤーがAからB（またはBからA）に切り換わります。→「[3-3 コントロールプレーヤーの切換](#)」

！ 注意

コンピュータに接続する前に

CDJ-400をコンピュータに接続して使う場合には、CDJ-400用のドライバソフトウェアをコンピュータにインストールしてください。CDJ-400用のドライバソフトウェアの入手とそのインストール方法については、CDJ-400の取扱説明書の「[接続のしかた](#)」および以下のホームページをご覧ください。
<http://www.prodjnet.com/support/>

！ 注意

DJSの起動

CDJ-400を接続して、電源を入れてからDJSを起動してください。

CDJ-400の取り外し

CDJ-400の取り外しや電源のオンオフを行なうときは、必ずDJSを終了させてから行ってください。

！ 注意

CDJ-400を3台以上接続したとき

CDJ-400を3台以上接続しても、3台目以降のCDJ-400を使ってDJSを操作したり、DJSの音声を出力することはできません。

2-2 CDJ-400のオーディオデバイス機能設定

DJSの【DJ Play】画面のオーディオ出力先を設定します。

DJSを起動し、プリファレンスの【Mixer/サウンドカード】画面で設定します。

DJSのミキサー機能を使用する場合

DJSのマスター（アンプ/スピーカー用）とモニター（ヘッドホン用）のオーディオ出力先を設定します。

→ 「 ●DJSのミキサー機能を使用する場合の構成（接続例）」

外部のDJミキサーを使用する場合

DJSのプレーヤーAとプレーヤーBのオーディオ出力先を設定します。

→ 「 ●外部のDJミキサーを使用する場合の構成（接続例）」

→ 「 ●CDJ-400からオーディオ出力する場合の構成（接続例）」

1 プリファレンスの【Mixer/サウンドカード】設定画面を開く。

- プリファレンスの左側にある設定メニューで[Mixer/サウンドカード]をクリックすると、【Mixer/サウンドカード】設定画面が表示されます。

2 [内部ミキサー] または [外部ミキサー] をクリックし、[ASIO] をクリックする。

- 内部ミキサー：**
DJSのミキサー機能を使用する場合に選択します。
- 外部ミキサー：**
外部のDJミキサーを使用する場合（CDJ-400からオーディオ出力する場合）に選択します。



メモ

DJSの設定変更

DJSの各種設定はプリファレンスの各種設定画面で行ないます。

DJSのメニューで[File]をクリックしてから[プリファレンス]をクリックします。

メモ

ASIOまたはDirectXの選択

CDJ-400を使用する場合には、[ASIO]を選択することを推奨します。CDJ-400をコンピュータに接続する前に、CDJ-400用のドライバソフトウェアをコンピュータにインストールしてください。ASIOに対応していないオーディオデバイスを使用する場合は、[DirectX]を選択してください。

CDJ-400用ドライバソフトウェア

ドライバソフトウェアの入手とそのインストール方法については、CDJ-400の取扱説明書の「[接続のしかた](#)」および以下のホームページを参照してください。

<http://www.prodjnet.com/support/>

3 サウンドカードとしてCDJ-400の音声出力端子を選択する。

- **サウンドカード1(SC1) :**

[サウンドカード1(SC1)] チェックボックスをクリックしてオンにしてから、サウンドカードの一覧の中から音声出力端子（デバイス/チャンネル名）をクリックして選択します。

- **サウンドカード2(SC2) :**

[サウンドカード2(SC2)] チェックボックスをクリックしてオンにしてから、サウンドカードの一覧の中から音声出力端子（デバイス/チャンネル名）をクリックして選択します。

CDJ-400の音声出力端子（デバイス/チャンネル名）

CDJ-400が1台接続されている場合：

サウンドカードの一覧には「PIONEER CDJ-400 ASIO」と表示されます。

CDJ-400が2台接続されている場合：

サウンドカードの一覧には「PIONEER CDJ-400 ASIO : CDJ-400 1」と「PIONEER CDJ-400 ASIO : CDJ-400 2」の2つが表示されます。それぞれのチャンネルに対応するCDJ-400の表示部には「CDJ-400 1」または「CDJ-400 2」と表示されますので、左側に設置されているCDJ-400をプレーヤーA、右側に設置されているCDJ-400をプレーヤーBとして選択してください。



サウンドカードの選択：

CDJ-400以外のオーディオデバイスをサウンドカードとして選択することもできます。この時、DJSの音声は選択したオーディオデバイスから出力され、CDJ-400の音声出力端子からは出力されません。

4 [OK] をクリックする。

- [OK]をクリックすると【Mixer/サウンドカード】設定画面を閉じます。

メモ

サウンドカードの選択

表示されているサウンドカードの一覧の中から、CDJ-400以外のサウンドカードやオーディオユニットを選択することができます。この時、DJSの音声は選択したサウンドカードやオーディオユニットから出力され、CDJ-400の音声出力端子からは出力されません。
→「●DJSのミキサー機能を使用する場合の構成（接続例）」
→「●外部のDJミキサーを使用する場合の構成（接続例）」

オーディオデバイスの増設

コンピュータにオーディオ出力が1系統しかない場合は、サウンドカードやオーディオユニットなどのデバイスを増設してください。コンピュータとオーディオデバイスとの接続方法およびドライバのインストールについては、各オーディオデバイスの取扱説明書などを参照してください。

ディレイタイムの調整

応答性能に違いがある複数のサウンドカードやオーディオユニットを使用する場合は、レスポンスの早いオーディオ出力側のディレイタイムを設定する（遅延時間を加える）ことにより、音声の出力タイミングをレスポンスの遅いオーディオ出力側に合わせるができます。CDJ-400を2台使用する場合は、ディレイタイムの調整は必要ありません。サウンドカード1 (SC1) とサウンドカード2 (SC2) のディレイタイムは0msecに設定します。

バッファサイズの調整

再生音が途切れる場合は、バッファサイズを大きくします。

プレーヤーL（リストプレーヤー）

コンピュータに3系統以上のオーディオ出力がある場合は、プレーヤーA、プレーヤーB、リストプレーヤーの3つのプレーヤーの音声が出力できます。

3章 CDJ-400を使ってDJSを コントロールする

CDJ-400をコンピュータに接続すると、CDJ-400からDJSをコントロールすることができます。

CDJ-400からDJSをコントロールすることで、今までコンピュータのマウスやキーボードで行っていた操作をDJプレーヤーを操る感覚でマニピュレートできます。プレイ、CUE、スクラッチ、テンポコントロールなどのプレーヤーの基本操作はもちろん、ロータリーツマミなどを使ってDJSの楽曲リストからの選曲操作ができます。

3-1 DJSのプレーヤーを操作する

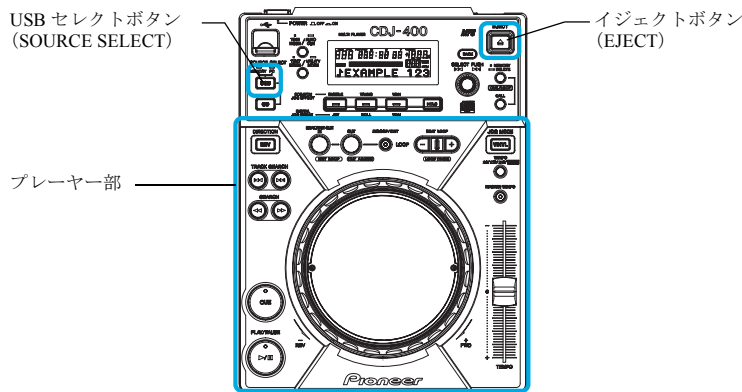
CDJ-400を使って、【DJ Play】画面のプレーヤーAまたはプレーヤーBを操作することができます。

1 CDJ-400のUSBセレクトボタン (SOURCE SELECT) で「PC」を選択する。

- DJSのオーディオ出力先がCDJ-400に設定されている場合には、DJSの音声はCDJ-400の音声出力端子から出力されます。
→「2-2 CDJ-400のオーディオデバイス機能設定」

2 CDJ-400のプレーヤー部を操作する。

- CDJ-400のジョグダイヤルやテンポ調整ツマミ、各種ボタンを操作すると、【DJ Play】画面のプレーヤーが連動します。



連動する【DJ Play】画面の機能（プレーヤー機能）

CDJ-400の操作ボタン類	連動する【DJ Play】画面のボタン類
PLAY/PAUSE	プレイ/ポーズボタン
CUE	キューボタン
SEARCH	サーチボタン
TRACK SEARCH	トラックサーチボタン
IN / REAL TIME CUE	ループイン/リアルタイムキュー/ホットループボタン
OUT	ループアウト/アウトアジャストボタン
RELOOP/EXIT	リループ/イグジットボタン
JOG MODE	ジョグモード切換ボタン (VINYLモード/CD Jモード)
TEMPO ±6/±10/±16/WIDE	テンポレンジボタン
MASTER TEMPO	マスターテンポボタン
TEMPO	テンポ調整ツマミ
JOG (-REV/+FWD)	ジョグダイヤル

ボタン類の機能の働きについては、CDJ-400の取扱説明書の「各部の名称と働き」をご覧ください。

！ 注意

コンピュータに接続する前に

CDJ-400をコンピュータに接続して使う場合には、CDJ-400用のドライバソフトウェアをコンピュータにインストールしてください。CDJ-400用のドライバソフトウェアの入手とそのインストール方法については、CDJ-400の取扱説明書の「接続のしかた」および以下のホームページをご覧ください。
<http://www.prodjnet.com/support/>

メモ

USBセレクトボタン (SOURCE SELECT)

USBセレクトボタンを押すたびにインジケータが「MEMORY」と「PC」に切り換わります。

メモ

イジェクトボタン (EJECT)

CDJ-400を1台接続している場合は、DJSの操作をプレーヤーAからプレーヤーBに(またはプレーヤーBからプレーヤーAに)切り換えることができます。
→「3-3 コントロールプレーヤーの切換」

スピン (VINYLモード時)

CDJ-400のジョグダイヤルを素早く回しながら手を離しても、ジョグダイヤルの回転に応じたスピードと方向でジョグダイヤルの回転が停止するまで再生が続く。マウス操作ではスピン再生はできません。

同時操作

CDJ-400のプレーヤー部からは以下の同時操作ができます。

- サーチボタンを押したままジョグダイヤルを回すと、サーチの再生速度がアップします。
- キューポイントサンプリング再生中にキューボタンを押したままジョグダイヤルを操作できます。
- キューポイントサンプリング再生中にキューボタンを押したままプレイボタンを押すと、キューボタンを離してもキューポイントには戻らずに再生が継続されます。
- キューポイントサンプリング再生中にキューボタンを押したままループイン (リアルタイムキュー) ボタンを押すと、再生位置がキューポイントとして登録されます。キューボタンを離すとキューポイントに戻ります。
- VINYLモード時にジョグダイヤルを押したままキューボタンを押すと、再生位置がキューポイントとして登録されます。ジョグダイヤルを離すとキューポイントに戻ります。
- VINYLモード時にジョグダイヤルを押したままループイン (リアルタイムキュー) ボタンを押すと、再生位置がキューポイントとして登録されます。ジョグダイヤルを離してもキューポイントには戻らずに再生が継続されます。

連動しないプレーヤー機能

CDJ-400の以下のボタンは【DJ Play】画面とは連動しません。(DJSには無い機能)

- ビートループ/ループディバイドボタン (BEAT LOOP)
- リバースボタン (DIRECTION)

3-2 選曲する

CDJ-400を使って、【DJ Play】画面のトラックリストまたはプレイリストを操作することができます。

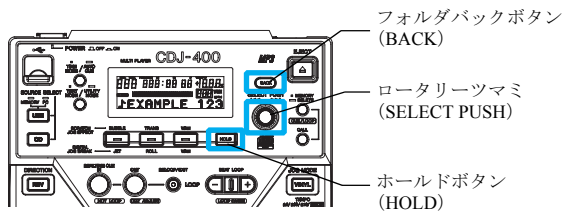
1 CDJ-400のUSBセレクトボタン（SOURCE SELECT）で「PC」を選択する。

- DJSのオーディオ出力先がCDJ-400に設定されている場合には、DJSの音声はCDJ-400の音声出力端子から出力されます。

→ 「2-2 CDJ-400のオーディオデバイス機能設定」

2 トラックリストまたはプレイリストを操作する。

- CDJ-400のロータリーツマミ、フォルダバックボタン、ホールドボタンなどを使って、【DJ Play】画面に表示されているトラックリストまたはプレイリストを操作することができます。



演奏したい楽曲に選択行を合わせる

CDJ-400の操作ボタン類	連動する【DJ Play】画面の機能
ロータリーツマミ（回す）	右に回すと選択行が下へ移動する。 左に回すと選択行が上へ移動する。
ロータリーツマミ（押す）	選択行が楽曲にある場合は、選択されている楽曲がプレーヤーA（またはプレーヤーB）にロードされて再生される。 選択行がジャンルやアーティスト/アルバムなどのカテゴリーにある場合は、列が下位のリストに移動して、選択したカテゴリーの楽曲のリストが表示される。
フォルダバックボタン（押す）	列が上位のリストに移動する。（ジャンルやアーティスト/アルバムなど）
ホールドボタン（押す）	リストが閉じている場合は、リストが開く。

3-3 コントロールプレーヤーの切替

CDJ-400を1台接続している場合は、「PC」が選択されている状態の時にイジェクトボタン（EJECT）を押すと、アサインされているDJSのプレーヤーがAからB（またはBからA）に切り換わります。ただし、DJSのオーディオ出力先はAからB（またはBからA）に自動的に切り換わりませんので、DJSの音声をCDJ-400の音声出力端子から出力している場合は、必要に応じてプリファレンスの【Mixer/サウンドカード】画面でDJSのオーディオ出力先を切り換えてください。

→ 「2-2 CDJ-400のオーディオデバイス機能設定」

CDJ-400を2台接続している場合

イジェクトボタン（EJECT）を押しても、アサインされているDJSのプレーヤーは切り換わりません。一旦DJSを終了させてCDJ-400の電源を切ってから、「2章 起動時のご注意」にしたがって、コントロールプレーヤーの選択とオーディオ出力先の選択を行ってください。

メモ

USBセレクトボタン（SOURCE SELECT）

USBセレクトボタンを押すたびにインジケータが「MEMORY」と「PC」に切り換わります。

メモ

トラックリストとプレイリスト

演奏リストの形式は、DJSのプリファレンスの【プレイスタイル】設定画面で切り換えます。プリファレンスの左側にある設定メニューで【プレイスタイル】をクリックすると【プレイスタイル】設定画面が表示されます。

上下スクロール

選択行が下端（もしくは上端）まで移動すると、リストが上下にスクロールして選択されている行が表示します。

アーティストやアルバムの選択

選択行をカテゴリー欄の【Artist/Album】に合わせてからロータリーツマミを押すと、アーティストやアルバムのリストが表示されます。選択行をアーティストやアルバムに合わせてからロータリーツマミを押すと、楽曲のリストが表示されます。

テキストモードボタン(TEXT MODE)

CDJ-400の表示部のTEXT表示を切り換えます。
・ タイトル/アルバム/アーティスト

タイムモード/オートキューボタン (TIME MODE / AUTOCUE)

時間表示を切り換えます。
・ 経過時間(TIME)/残り時間(REMAIN)
押し続けるとオートキュー機能がオン/オフします。

オートキュー機能

楽曲がロードされた時に、実際に音声が始まる直前でキューポイントの設定を自動的に行う機能です。

プレイリストの場合

演奏リストの形式がプレイリストの場合は、選択された楽曲がロードされて待機状態になります。

！ 注意

CDJ-400を3台以上接続したとき

CDJ-400を3台以上接続しても、3台目以降のCDJ-400を使ってDJSを操作したり、DJSの音声を出力することはできません。

4章 サポートサイトのご利用について

DJSの操作方法や技術的な質問をお問い合わせいただく前に、DJSのCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアルとDJSのサポートサイトに掲載されておりますFAQを共にご確認ください。

- DJSのサポートサイトへ接続するためには、DJSのメニューで[File]をクリックしてから[Internet]をクリックしてください。DJSのサポートサービスをご利用になる場合は、ユーザー登録の際にご指定いただきました「ログインネーム」と「パスワード」が必要です。
- DJSのサポートサービスをご利用になる場合は、お客様のお名前・製品名・インストールキー・コンピュータの機種名およびスペックの詳細（CPU・メモリ搭載量・接続している周辺機器など）・オペレーティングシステムのバージョン・具体的な不具合の症状を必ずご連絡ください。
- DJSに対するサポートは、ユーザー登録が完了されている方でなければ一切受けられません。ユーザー登録の際にご指定いただきました「ログインネーム」と「パスワード」は、「インストールキー」や「登録ID」と同様、お忘れにならないように十分ご注意ください。
※DJSのインストールやユーザー登録の方法については、DJSのCD-ROMに収録されているユーザーズマニュアルをご覧ください。
- インストールやユーザー登録でお悩みのお客様は、インターネットのホームページまでお問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

<インストールやユーザー登録についてのお問い合わせ>

<http://www.prodjnet.com/djs/support>

※コンピュータや周辺機器など、弊社の取り扱い製品以外の組み合わせや技術的な質問に関しては、各メーカーまたは販売代理店へご確認くださいませようお願いいたします。

- 今後、DJSの機能・性能向上のためのバージョンアップを予定しております。ユーザー登録を行っていただきますとサポートサイトのご利用が可能になり、アップデートプログラムをダウンロードすることができます。是非ともこのアップデートプログラムによるバージョンアップを行っていただき、常に最新バージョンをお使いいただきますようお願い申し上げます。